第 5 章　北海道のストーンサークル（環状列石）

石井　慎太朗

5.1　ストーンサークルとは

5.1.1　ストーンサークルの概要

ストーンサークルは、石を環状に配置した古代の遺跡である。環状列石（かんじょうれっせき）、環状石籬（かんじょうせきり）ともいう。巨石記念物の一種でもある。柱状または板状の石を環状に立て並べたもので、新石器時代から初期金属器時代の祭祀・埋葬に関する遺構とされている。ヨーロッパやアジアに広く分布し、イギリスのストーンヘンジ（Stonehenge）はその代表とされる。日本では北日本の縄文時代後期・晩期に多く、墳墓の一種と考えられている。また、太陽崇拝と関係しているという説もある。

5.1.2　ストーンヘンジの概要

図 5-1　ストーンヘンジ

出所：ウィキペディア

イギリスのストーンヘンジは、前 2500～2000 年にかけて構築したと考えられる巨大で特殊なストーンサークルである。円陣状に並んだ直立巨石とそれを囲む土塁からなり、世界で最も有名な先史時代の遺跡である。馬蹄形に配置された高さ 7m ほどの巨大な門の形の組石（トリリトン）5 組を中心に、直径約 100m の円形に高さ 4～5m の 30 個の立石（メンヒル）が配置されている。夏至の日に、ヒール・ストーンと呼ばれる高さ 6m の玄武岩と、中心にある祭壇石を結ぶ直線上に太陽が昇ることから、設計者には天文学の高い知識があったのではないかと考えられている。また、当時としては高度な技術が使われており、倒れないよう安定させるため石と石の間には凹凸がある。

遺跡の目的については、太陽崇拝の祭祀場、古代の天文台、ケルト民族のドルイド教徒の礼拝堂など、様々な説が唱えられているが、未だ結論はでていない。この遺跡とその周辺は、30km ほど離れたエーヴベリーの遺跡群と合わせて 1986 年にユネスコの世界遺産に加えられた。また、登録古代モニュメントとして法的に保護されている。ストーンヘンジ自体はイギリスの国家遺産として保有・管理されている。周辺はナショナル・トラストが保有している。

5.2　ストーンサークルの意義

これまで日本列島で発見されてきたストーンサークルは、中心となる立石の周辺に石塊を環帯状に配列したものであり、それが環状列石と呼ばれる所以である。直径は 20～30m 程度のものが多く、10m以下の小さなストーンサークルも少なくない。円形に配石された環状石の内側には 2 重、3 重に河原石が並べられることがあり、周辺には墓石や土器棺が存在することがある。これらのストーンサークルは一種の天文台のように、太陽を用いたカレンダーの機能を果たし、そこで祭祀儀礼が行われることがあったと考えられている。特に冬至と夏至、春分と秋分の観測は重要であり、古代の暦法では冬至の日、すなわち太陽の出入りが最も南による陰の極限の日が、1 年の初めとするような考え方が存在したことからしても、太陽の観測は不可欠であった。それ故、古代の民が海を渡って日本列島に到達した際には、生活のリズムを刻み、季節を知るためにも、まずストーンサークルを築く拠点を厳選して環状列石を整備し、その場所を基点として周辺に集落を築いていったと考えられる。

5.3　日本のストーンサークル

ストーンサークルは東北の青森県と秋田県や、北海道で発見されたものが有名だが、古いものでは本州中部にも複数発見されている。主たるストーンサークルを時代別に並べてみると、時代とともに列島を北上していることがわかる。日本最古と考えられている長野県阿久遺跡をはじめとして、日本では数多くのストーンサークルが発見されている。

以下は、日本の主なストーンサークルがある遺跡をまとめたものである。

表 5-1　日本の主なストーンサークル

遺跡名	都道府県	時代	概要
阿久(あきゅう)遺跡	長野県	縄文前期	現在のところ最古級の環状集石が構築されている。1979 年 7 月 2 日に国の史跡に指定された。
千居(せんご)遺跡	静岡県	縄文中期	特徴的な大規模ストーンサークルは富士信仰とのためとされる。1975 年に国史跡に指定された。
田端(たばた)遺跡	東京都	縄文中期	遺構はストーンサークルのレプリカが置かれている。1971 年 3 月 29 日に東京都史跡に指定された。

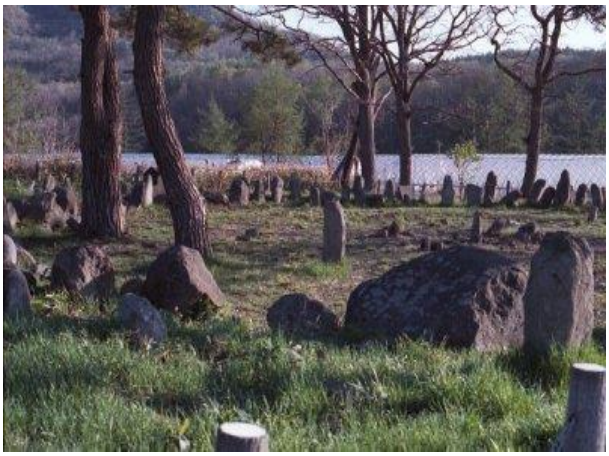
牛石(うしいし)遺跡	山梨県	縄文中期	東西南北に配された小サークル、連結する河原石による列石、内側に沿って立石や埋甕を伴う組石状配石の 3 種の配石遺構により構成されている。
湯丹沢(ゆふねさわ)環状列石	岩手県	縄文後期	大小さまざまな形の石が並んでいる。1990 年に大規模団地予定地として発掘調査を行っていた際に発見された。
伊勢堂岱(いせどうたい)遺跡	秋田県	縄文後期	4 つのストーンサークルから構成されている。保存状態が良く、学術的な価値が高いことから 2001 年に国史跡に指定された。
大湯(おおゆ)環状列石	秋田県	縄文後期	大師森山頂部からは環状列石が見下ろせる状態にあり、両者には因果関係があると思われる。これまでの環状列石には見られない地形となっている。
大師森(たいしもり)遺跡	青森県	縄文後期	大師森山頂部からは環状列石が見下ろせる状態にあり、両者には因果関係があると思われる。これまでの環状列石には見られない地形となっている。
大森勝山(おおもりかつやま)環状列石	青森県	縄文後期	日本国内でも数少ない縄文時代晩期の環状列石である。組石の配置など、他の環状列石と異なっている。
子牧野(こまきの)遺跡	青森県	縄文後期	青森山田高等学校の遺跡発掘クラブが環状列石を発掘し、青森市の有名な遺跡の一つとなる 1995 年に国史跡に指定された。

ストーンサークルにレイラインは存在するのかより筆者作成

5.4　北海道のストーンサークル

5.4.1　忍路環状列石

図 5-2　忍路環状列石



出所：文化遺産オンライン

忍路（おしょろ）環状列石は、北海道小樽市忍路にあるストーンサークルの遺跡である。日本の考古学史上初めて学会に報告されたストーンサークルでもある。1961 年 3 月 10 日に国の史跡に指定された。三笠山ストーンサークル、忍路環状石籬とも呼ばれる。北海道小樽市から余市町にかけては 80 基以上のストーンサークルが確認されているが、その中でも忍路環状列石は最大のものである。遺跡は三笠山という小高い山の山麓の、標高 20mの河岸段丘上に位置する。遺跡の広さは南北約 33m、東西約 22mで、楕円形をしている。外側に 2m～3mの幅で大きさ 10cm～20cm の石が環状に置かれ、その内側に高さ 1m～2m の大石が配置されている。約 3500 年前の縄文時代後期のものと推定されている。

忍路環状列石が造られた目的としては、区画墓と呼ばれる集団墓地だったという説が有力である。区画墓とは、墓地の周囲を石などで囲み、生活の場と儀式の場とを区別したものである。忍路環状列石の北側に忍路土場遺跡が隣接するが、ここから発掘された巨大木柱は、環状列石とも関連する祭祀的な道具だったのではないかと推定されている。

5.4.2　地鎮山環状列石

図 5-3　地鎮山環状列石

石井慎太朗撮影

地鎮山（じちんやま）環状列石は、忍路環状列石の西、約 1km のところにある地鎮山（標高 50m）の山頂に位置している。1950 年 8 月 28 日に北海道史跡に指定された。その形は楕円形で、12 個の大石が 10m×8m の規模に配置されている。1949 年に行われた発掘調査では、中央よりやや南寄りに円形の集石（小さな円石を集めたもの）が見られ、その地下部分から 2m四方深さ 1mほどの穴が発見されている。底には円石が敷かれていた。縄文時代後期の墓の一種と考えられているが、穴が 1 個しか発見されなかったことから、集団の墓ではなく個人の墓としての性格を持つものとされている。現在、墓の壁はコンクリートで土留めされている。

5.4.3　西崎山環状列石

西崎山環状列石は小樽市と余市町の境の尾根にある。1951 年 9 月 6 日に北海道史跡に指定された。西崎山環状列石群は、第 1 区から第 4 区に区分されるが、このうち、第 1 区が西崎山環状列石として史跡に指定されている。指定地の第 1 区は、余市駅から東南へ 5.5km、海抜 70mの西崎山の丘上にある。このサークルは縄文時代後期の墓で、直径 1～2mの遺構が 7 ヶ所密集して、一つの大きなサークルを形成しており、長径 17m、短径 12mの楕円形をなし、大小数百個の自然石が並べられている。大きいサークルを構成する小さいサークルの一つ一つは墓穴と思われる。土器や石鏃が発見されている。

図 5-4　西崎山環状列石

石井慎太朗撮影

5.4.4　音江環状列石

深川市音江環状列石は、石狩川に面した稲見山と呼ばれる丘陵突端部の標高 115m前後のところに、直径 2～5mの大きさで、円形に大小の石を並べた遺構である。1956 年 12 月 28 日に国指定史跡に指定された。1952 年～1955 年に東京大学考古学研究室によって 13 基の配石遺構が確認された。その中の 9 基を発掘したところ、各々の配石の下には掘り込まれた穴があり、ベンガラがまかれ、底から朱漆塗りの弓やヒスイの飾玉、石鏃などが出土した。これらの墓は、付近から採集された土器や伴出した石鏃、ヒスイの玉などから縄文時代後期のものと考えられている。

図 5-5　音江環状列石

出所 : 文化遺産オンライン

5.4.5　神居古潭

図 5-6　神居古潭

出所：北海道　北の縄文

旭川市神居古潭ストーンサークル遺跡は、神居山中腹の標高 213mの平坦面にある。戦後すぐに、一部が調査されたが、1990 年の試掘調査で、遺跡の主要部分の表土を剥いで配石の状態を確認して全容がわかった。配石の構造は、特徴的で全部で 10 群に分かれている。配石の状態を確認するのが目的の調査であり、配石の下は発掘していないが、調査の際に 3 点ばかりの土器片、黒曜石の剥片が確認されている。土器の文様から縄文時代後期中頃のもので、このストーンサークルが使用された時代もこの時代と考えられる。本遺跡は共同墓地として営まれたと考えられている。また、近くには、竪穴住居遺跡など縄文時代の史跡が点在している。

5.4.6　鷲ノ木遺跡

図 5-7　鷲ノ木遺跡

出所：北海道　北の縄文

鷲ノ木（わしのき）遺跡は、北海道茅部郡（かやべぐん）森町鷲ノ木町に所在する縄文時代の遺跡である縄文時代後期前半（約 4000 年前）の環状列石と竪穴墓域、配石遺構や竪穴住居が発見されており、北日本における縄文時代の墓制や祭祀、東北地方との交流を考えるうえで貴重な遺跡である。2006 年 1 月 26 日に、国の史跡に指定されている。遺跡は内浦湾（噴火湾）から直線距離で約 1km 内陸に所在する。鷲ノ木遺跡の環状列石は、外帯・内帯・中央帯の 3 重に石が丸く並べられている。これまでの調査では、石の下にお墓は発見されていない。石の数は約 600 個あり、穴を掘って埋め込まれているものやそのまま置かれたものなどが見られる。環状列石のすぐそばには、埋設土器とよばれるものが 1 ヶ所見つかっている。これは乳幼児を土器に入れて埋葬したり、遺骨が骨になった段階で土器に入れて再埋葬したりするものと考えられている。ほか、儀式の跡と考えられる砂利のかたまりが 5 ヶ所見つかっている。

参照 HP

・岩手県滝沢市 HP
http://www.city.takizawa.iwate.jp/view.php?pageId=1538
・ウィキペディア
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%89%9B%E7%9F%B3%E9%81%BA%E8%B7%A1
・Weblio 辞典 ストーンサークルとは
http://www.weblio.jp/content/%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%BC%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%AB
・北海道北の縄文
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/bns/jomon/remains_05.htm
・ストーンサークルにレイラインは存在するのか
http://www.historyjp.com/article.asp?kiji=202
・文化遺産オンライン
http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/112467
・文化遺産オンライン
http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/112467